

国指定史跡 比企城館跡群

小倉城跡

全国的にも他に類を見ない

珍しい石垣のある山城



国 指定史跡小倉城跡は、ときがわ町の東の端に位置する、戦国時代の山城です。平成20年に嵐山町の菅谷館跡、杉山城跡、吉見町の松山城跡と一緒に、国指定史跡となりました。周囲には蛇行する榎川が流れています。さらに川を挟んだ向かい側には大平山などの山があります。これら自然地形を堀や障壁として取込み、防御性に富んだ地勢となっています。この立地環境の中で、小倉城跡は河川交通と陸上交通を監視する役目を担っていたと考えられます。

今 のところ戦国時代の文献史料は確認されておりません。城主は不明ですが、江戸時代の「新編武藏風土記稿」では小田原北条氏の重臣である遠山氏、「武藏誌」では遠山氏あるいは上田氏とも伝えています。過去の発掘調査の成果から、天文～永禄年間（1532～1570）頃に盛期を迎えた後半頃に使われなくなつたものと推定されます。

山 城の構造としては、地形を巧みに利用した5つの郭を造成しており、郭に伴って土塁や堀、切岸、虎口といった防御施設が設けられています。



最 大の特徴は、城の隨所に見られる石垣や石積みです。郭3のコの字形に囲む最大高約5m、総延長120mあまりの石垣や、郭1の土塁内側には3段の難壇状に構築した石積み（埋め戻してあるため現在見ることはできません）があることがわかっています。これら石垣などは緑泥片岩を使用しており、板状に割れる特徴を活かして長辺を正面に並べた積み方をしています。

こ の山城自体が岩山であり、築城時に発生した石材を石垣などに利用したと考えられます。その性格は単に実用面の土留めにとどまらず、装飾的に『見せる』効果をもねらったものと評価されています。近くには国指定史跡下里・青山板碑製作遺跡（小川町）もあり、その板碑製作に携わった石工と関連があった可能性も考えられます。

比 企地域に小田原北条氏が進出する前後の時期で、優れた縄張りを今に伝える山城としても高く評価されていますが、依然として謎のペールに包まれている部分が多くあります。その謎を解明していくためにも、今後の調査が期待されます。

■問い合わせ先
ときがわ町教育委員会 生涯学習課
〒355-0396 埼玉県比企郡ときがわ町大字桃木32番地
Tel.0493-65-2656(直)

■発行
令和3年9月

